

## 令和6年(2024年)度 福田地区防災研修会報告

～詳細はふくだ Net をご覧ください～

12月6日(金)、福田地区自主防災連絡協議会、福田地区連合町内会、福田地区防災士の3団体による防災研修会が、昨年9月に開館した安佐南区八木にある広島市豪雨災害伝承館において31名(防災士13名)の参加で行われました。

災害伝承館では10時から副館長の松井憲氏より被災当日の生々しい体験談や災害後の生活、被災者としての実体験のほか、復旧復興から災害伝承館の設立までの経緯について、資料を説明しながら様々な角度から熱のこもったお話をいただき、災害からの復興に至る被災者目線に立った知恵の詰まった施設であることが理解できました。展示スペースには、災害研究の最前線の成果を活かした土石流災害の再現 CG も常時上映され、土石流の実態もよくわかりました。この施設は様々な防災機能や防災教育の機能も持ち合わせており、昼食後の施設見学では、伝承館の職員の方々と意見交換しながら防災備蓄倉庫内部のようすや様々な防災食を見せていただき、ここが内閣府と国土交通省から第一回「NIPPON 防災資産」の「優良認定」を受けた施設であることにも納得がいききました。

午後からは災害伝承館西側の土石流跡地を見学。住居の基礎しか残していない被災跡地を見学し、その上流にできている巨大な砂防堰堤とその上に見える急斜面の土石流跡を見て、当時発生した土石流のすさまじさの一端を感じることができました。最後に、この被災地の下流側にある小丘を訪れました。そこには2m程度の大きな古い巨石があり、この付近が昔から土石流の危険地帯であることを理解できた見学となりました。

写真:岡平、播野、越智 記責:越智



被災住宅下流の巨石(右)がある小丘にて

豪雨災害伝承館の前で記念撮影



豪雨災害伝承館西側の土石流被災地の見学 道の両側は基礎しか残っていない住宅跡



防災備蓄倉庫には様々な備品がたくさん、棚いっぱいには収納されている。



屋外の防災備蓄倉庫

かまどベンチ



種類豊富な防災食の例